

科 目 名

環境・衛生化学実習

Laboratory Work in
Environmental Hygienic Chemistry

3年 後期 1単位 必修

山口 忠敬・武知 進士
中原 和秀

概要・目標

食品由来の化学物質による生体への影響C12(1)を評価する手法の基本的知識および技法を修得する。また、日常生活に密接に関係して、人の健康に多大な影響を与える飲料水、生活排水、大気および食品などの環境衛生・食品衛生の実社会における最先端の現場における業務を見学し、いかにして人の健康が護られているかの基本的知識C12(2)を修得する。

授業計画

学内の実習室に置ける実習 C12(1)-2-1~4、大学独自

1. メイラード反応生成物の DNA 切断活性および変異原性試験法

学外の施設見学実習 C12(1)(2)、大学独自

2. 熊本県北部浄化センターにおける下水処理場 C12(2)-2-4~8
3. 熊本県保健環境科学研究所微生物科学部 C12(1)-2-1~4
4. 熊本県保健環境科学研究所生活科学部 大学独自
5. 熊本県保健環境科学研究所大気科学部 C12(2)-3-1~4
6. 熊本県保健環境科学研究所水質科学部 C12(2)-2-1~4,7,8
7. 熊本県保健環境科学研究所地下水科学部 C12(2)-2-1,2,4,7
8. 熊本市環境総合研究所 大学独自

授業方法

実習内容の概略を講義後、実験実習・実地見学を行う。

施設見学の前後に、PC のネット検索等により知識の収集を含めて、各グループの実習成果の発表会を行う。

評価方法

レポート、出席状況、実習態度から総合的に評価する。

教 材

研究室で作成したテキストを使用する。

履修上の注意

あらかじめ実習書を読み、内容を把握しておくこと。

学外の人々と接触して、学ばせていただく立場ですから、服装や礼儀には注意を払うこと。学外施設見学の際も、白衣、名札を着用のこと。